



# Person of the Month

誰もが、様々な場所で経験した3.11。毎回色々な「この人!」をクローズアップし、3.11後の生き方を紹介します。

東日本大震災発生当時、郡山市のコミュニティFM局のパソナリテイやフリーペーパー制作などに関わっていた大戸慈(ちか)さん。現在はご主人である伊藤孝介さん、長女の心舞(こまちゃん)とともに札幌で生活されています。これまで、そしてこれからの生き方について伺いました。

## 震災直後の状況

「激しい揺れに危機感を覚え、福島市の実家へ向ったものの、道路が寸断されて進めず。とにかく状況を知りたいと思い、ラジオに向いました。到着すると局も大パニックでアナウンサーが足りず、そのまま局に残り番組で話すことになったのです。急遽、情報を伝える側になった慈さん。インフラが崩壊し、市民へは3〜4日間ほど全く情報が届かない中で、貴重な情報源となったのが慈さんのラジオでした。」「震災翌日には地元の消防団の方々が町を回り、地震の規模や被害状況、避難所や給水所など様々な情報を局まで届けて下さいました。慈さんの友人たちは「ラジオから慈さんの声が聞こえてきて、安心した」そうです。また病院が透析に使う水を至急必要としてい



発信し続けることは、ここに暮らしていても大丈夫と言いつけることになってしまいました。」「未だに放射線量の高い区域があるものの、様々な事情で移住できない人達も大勢います。慈さんはそれを理解した上で、札幌で自分の家庭を育んでいく道を選択しました。それは正しさが正しくないかという単純な基準ではなく、状況を理解し、受入れた上での選択なのでしよう。」「すくすくと成長する心舞ちゃん。優しく見守る孝介さんと慈さん。誤解を恐れずに書くならば、彼らは札幌での家族生活を大いに楽しみ、大切にしているように映ります。ぜひ幸せな家庭を築いて欲しい・・・筆者は同じ土地に生きる者として、そう願わずにはいられません。(indy横山)

## FM ラジオでお馴染みのDJ タック・ハーシーさんが語る「音楽のチカラ」

3・11から2週間後に行った福島と仙台。震災関連の情報を得ようというラジオをつける、その情報の合間にみんなが知っている一緒に歌えるような曲が聞こえてきました。非日常の中にある日常をラジオに感じて、心がほっとしたのを覚えています。」「音楽の力」とよく言いますよね。その力は、こんな風に心に安らぎを与え、前を向いていこうという気持ちにさせるだけではありません。もう1つの力があるんです。それは、大きな問題に対して何かを訴える時、言葉だけでは伝わりにくいメッセージを、より強く心を揺さぶるような力にすることで、人々を一つにまとめる力です。」「1979年3月にアメリカ・ペンシルベニア州スリーマイル島原子力発電所で発生した事故の半年後、脱原発を訴えるコンサートが、ニューヨークのマディソン・スクエア・ガーデンで5日間に亘って行なわれました。そのステージには、The Doobie Brothers・Jackson Browne・James Taylor・CSN&J・Carly Simon・Bonnie Raitt・Tom Petty・Bruce Springsteenなど、時代を代表するミュージシャンがずらりと揃っていました。テーマソングはジヨ

## Better Music for Better Days



ることを知り、ラジオで呼びかけたところ、水の出る家庭から多くの方々を持ち寄ってくれたというエピソードも残っているそうです。」「国民の多くがシーベルトとかベクレルという言葉初めて耳にされたと思います。もちろん私も同じでしたが、こんな危険なモノがすぐ近くにあったんだということ、初めて実感しました。」「福島第一原発は1〜3号機がメルトダウン、定期点検中だった4号機と1・3号機は水素爆発を起こし、有害な放射性物質は90京ベクレルが大気へ、15京ベクレルが海洋へ放出されました(2012年5月・東京電力の試算)。事故から3年半が経過した今でも放射性物質は放出され続け、核燃料を冷やすために注入されている水が汚染水となつて廃炉作業の妨げになっています。

## 目まぐるしい行動の理由

震災から2ヶ月後、慈さんは東京でピラティス(心身のエクササイズ)の資格を取得。続けざまに様々な行動に出ます。広島を訪れ原発投下の足跡を巡り、12月には札幌へ移住。翌1月に福島の女性たちによる団体「ビーチハート」を発足。そしてウクライナへ出て向き、チェルノブイリ原発事故を経験した女性たちと会い、話を聞くことに。周囲が驚くほどのこうした一連の行動はすべて一本の線が繋がっていました。」「被災した人は、誰もが何かを失いました。家族、友達、家、故郷、そして被爆・・・その現実をまだ受入れることができない人もたくさんいます。復興のためには先ず、自分が置かれていた状況を受け入れなければなりません。いま心の復興こそが求められているの



です」。慈さん自身が現実を受入れるためには、こうしたプロセスが必要だったのでしょうか。」「自分は結婚できるのか、出産できるのか。福島は今後どうなっていくのか。不安と自分が失ったものを整理し再構築する必要がありました。そして行動する中で出逢った南相馬出身のご主人・伊藤孝介さんの存在は極めて大きかったそうです。」「移住は簡単なことではありません。しかし慈さんは震災の4ヶ月後には移住を決断しています。ラジオやフリーペーパーの仕事も辞めました。」「誰かから得た情報をそのまま発信することに怖さを感じるようになったのです。それと同時に、私が福島から

## 福島への想いと札幌での日々

ン・ホールの「Power」。このPowerとは電力のこと。"Dance with Me"のユニットで知られるバンド、Oleausを脱退した彼の初のソロナンバーです。」「暖かな太陽の力を、淀みない水の流れを、止むことのない風を、燃え盛る薪の輝きを私にください。でもどうか、命を奪う原子力はなくして欲しいのです。」「そう歌うこの曲。単に脱原発を歌うのではなく、自然が持つ力と共に生きていこうという、この地球に生きる命へのメッセージが込められた曲です。それをメディア・アムテンボの美しいメロディーに乗せて歌う時、そこに生まれるのは「だめだこれ!」ではなく、「僕らはこんな風に生きていかないか」という、前を向いた暖かく力強いエネルギー。このコンサートは全米に大きな流れを生むことになり、25万人もの人が参加するデモに繋がり、原発の新設が中止されることになりました。」「音楽の力は物事を変えるほど大きくはないかもしれませんが、でも、人の心を繋ぎ、一つにまとめ、大きく育てる力はあるんですね。35年前の「Power」はその証明ではないかと改めて感じます。



長く使う = 捨てない = ECO

- 一般印刷
- B5、A4クリアファイル
- 変形型クリアファイル
- カラー印刷ビニールポーチ
- その他、各種印刷

長く使える、実用的な宣伝商品は結果的にお得だと思いませんか?

株式会社 **プリント・アイ** TEL (011) 665-0098 FAX (011) 665-0035  
E-mail: info@print-eye.com http://www.print-eye.com